基礎研究の面から先生方のお仕事に貢献できるように精進してまいります。

琉球大学大学院医学研究科ウイルス学講座 教授
大野　真治　先生

質問 1.　琉球大学大学院医学研究科ウイルス学講座教授に就任されてからこれまでを振り返ってみてどのような感想をお持ちでしょうか。

平成 28 年 4 月 1 日からウイルス学講座の教授に着任して 1 年ほどですが、あっという間であったというのが正直な感想です。前任地の九州大学では大学院生の指導が中心であり、学部学生への講義・指導はそれほど多くありませんでした。また、自ら実験をおこなうのが大好きなこともあり、こちらに着任してからは学部・大学院への講義時間数が格段に増加しましたので、業務内容の変化に対応するのに苦心いたしました。幸いにも周囲の先生方の多大なサポートをいただけましたので、自分なりにうまく行ったのではないかと思っております。

夏バテしやすいこともあり、沖縄の夏が不安ではありましたが体調を崩すことなく乗り切ることができました。その半面、冬が思ったより寒く感じました。多くのプロ野球、サッカーチームがキャンプをするので、もっと温かいものと思っていたので意外でした。

質問 2.　貴講座での、研究、人材育成について今後の課題、方針などについてお聞かせ下さい。

私がこれまで行ってきた研究は、遺伝子組換え技術を用いたウイルス遺伝子の機能解明やウイルスの増殖に関わる細胞因子の解析、ウイルス感染モデルの構築などを基盤としたものです。今後の研究もこれらを基本にして行きます。これまでの研究の継続ももちろんですが、琉球大学は地域貢献を謳っているので沖縄県で問題となりそうな、もしくはすでになっているウイルスも研究対象としていきます。

地域医療に携わる医師不足が耳目を集めておりますが、基礎医学研究・教育に携わる医学部卒業者の減少も分野を問わず深刻な状態にあります。医学研究に少しでも関心を持ってもらうために情報発信に努め、学部学生の面々にも実際に研究に接してもらえるような環境づくりをおこなって行きたいと思っております。

当面の課題は、研究環境の整備になります。一部の病原性微生物を用いた実験や遺伝子組換え実験には規制がかけられており、指定された

区域内でしか扱うことができません。私たちの研究はこれらの規制対象ですので、ウイルス学講座の実験室内である程度の研究が完結できるようにしておく必要があります。いつ動かなくなってもおかしくない機械もいくつかありますので、今後数年かけて整備していくつもりです。

質問 3. 貴講座において特に力を入れている研究・活動があればお聞かせ下さい。

新しい環境に身をおくようになりましたので、研究対象も自分にとって新しいものを取り入れて行きたいと思っています。他県と比べて沖縄県での発症率が高いとされている古典型のカポジ肉腫はウイルスが原因ですので、発症率が高い原因をウイルス側から解明できないかと考えています。また、当講座の伝統でもあります日本脳炎ウイルスやデングウイルスといった蚊媒介性のフラビウイルスも継続して取り組んで行きます。

質問 4. 県医師会に対するご要望等がございましたらお聞かせ下さい。

沖縄県ではインフルエンザやRSウイルスが通年で流行しているという話をいろいろな先生から聞いております。また、ありふれた症状の中にこれまで知られていなかったウイルスの存在が証明された例も多々あります。上気道炎をおこすウイルスがよい例で、数年に一度は新しいウイルスの報告がなされています。

新しいウイルスを発見し、研究をおこなうことはウイルス研究者にとっての理想です。将来的にはこのような研究も行っていきたいと考えております。感染症の疫学・調査研究を進める上では検体が無いことには始まりません。医師会の先生方に検体提供のお願いをいたすこともあるかと思いますので、その際にはご協力いただけますと助かります。

質問 5. 大変ご多忙の身でありますが、日頃の健康法、ご趣味、座右の銘等がございましたらお聞かせください。

車の運転があまり好きではないこともあり、なるべく歩くことを心がけています。通勤はバスを利用していますが、幸いなことに琉球大学向けのバス停までは歩いて15分ほどありますので、ちょうどよい運動になっています。また、小学生の息子がサッカーに興味を持っていますので、一緒に体を動かすようにしています。

熱中するほどの趣味はありませんが、よく本を読んでいます。特に好きな作家はいませんが、時代小説や古典、推理小説など書店で目に付いたものを乱読しています。また、息子の影響もあり海外・国内問わずサッカーをよくみています。そして年に数回は総合運動公園に行き、某チームを応援しています。

名言・格言に好きなものは多いのですが、最近では「幸運は用意された心のみに宿る」を常に意識しています。フランスの細菌学者であるルイ・パスツールの言葉で、膨大な試行錯誤の上に新発見という幸運が訪れる意味であると理解しています。この言葉を胸に日々精進して行きたいと思っています。

この度はお忙しい中、ご回答頂きまして、誠に有難うございました。

インタビューアー：広報委員　清水 雄介